



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して児童の資質・能力の育成を図ります。各活動・学校行事における顕著な児童の姿は、補助簿等を活用して記録しておきます。

新たな目標や課題がもてる学習評価

特別活動では、児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにする評価を進めることが必要です。そのために、活動の過程における児童の努力や意欲等を積極的に認めることが大切です。

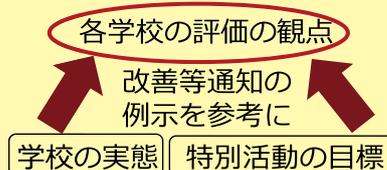
評価の観点及びその趣旨

特別活動は、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である各教育委員会ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、各学校において評価の観点を設定する際の参考になります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Point 各学校における評価の観点の設定

評価の観点は、学校の実態、学習指導要領の特別活動の目標を踏まえ、改善等通知の例示を参考に各学校で設定します。その際、学校として大切にしたい内容を踏まえた評価の観点になるようにするため、次の手順を参考に教員間で意見交換する場を設け、共通理解を図ることが大切です。



◇ 児童の具体的な姿を考える

特別活動における資質・能力の視点（自己実現）を重視した学校の例

学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

◇ 具体化した姿から評価の観点を設定する

「観点名」
主体的に目標を立てて
共によりよく生きようとする態度

重視する内容を踏まえた評価の観点にするためには、左の具体的な児童の姿を基に、キーワードを選んで観点を設定します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

特別活動における「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、次の三つの内容を含めて評価規準を作成します。

- I 粘り強さ（例：粘り強く、積極的に、進んで 等）
- II 自らの学習の調整（例：見通しをもって、振り返りを通して）
- III 自己のよさや可能性等に関すること（例：自己のよさを發揮、責任を果たして 等）

第5学年及び第6学年「学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画」

学級活動の 評価規準例

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら（II）、自己のよさを發揮し、役割や責任を果たして（III）積極的に（I）集団活動に取り組もうとしている。

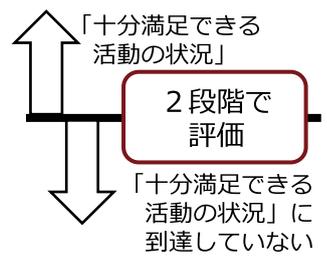
Point

学級活動については、低・中・高学年ごとに評価規準を作成することが望まれます。児童会活動、クラブ活動、学校行事については全学年共通の評価規準を作成します。

学習評価における留意点

「十分満足できる活動の状況」を2段階で評価

特別活動では、2段階で評価を行います。その際、学級会ノートにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら機会を捉えて評価することが大切です。なお、「十分満足できる活動の状況」については、他の教科等と同様に具体的な児童の姿で評価規準を設定することが大切です。



観点別学習状況の評価の総括

学期や年間を通して一覧で確認できる評価補助簿を活用すると、事実に基づいて評価の総括ができます。ここでは、学級活動を例に挙げていますが、児童会活動、クラブ活動、学校行事についても同様に評価を記録しておくことで、評価の総括に役立てることができます。

総括して○を付ける際には、学校で方法を統一しておく必要があります。例えば、「知識・技能」において○が付いていなくても、他の観点で複数○が付いている場合、総括において○を付けることも考えられます。

〈学級活動（1）における評価補助簿の例〉

※○は、各時間や総括において、「十分満足できる活動の状況」を示します。

番号	名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A		○○○	○○	9/28 学級会でみんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。	○
2	B			○		
3	C	○	○○	○○○	5/20 役割に見通しをもって準備をしたり休み時間にクイズを考えたりして、お楽しみ会でみんなを楽しませる等、主体的に活動した。	○

一連の学習過程を通して、「十分満足できる活動の状況」の場合、観点別に○を付けたりメモ欄にその様子の記述に日付を加えて記録したりします。設定している評価規準に照らして「十分満足できる活動の状況」と判断したタイミングで観点別に○を付けます。特別活動は、全員を一律に「記録を残す評価」として見取ることができない場合もあることを踏まえて、年間を通じて継続的に評価補助簿で記録していくことが大切になります。

指導要録における特別活動の記録

番号	名前	学級活動（1）の補助簿の総括評価	学級活動（2）（3）の補助簿の総括評価	指導要録
1	A	○		○
2	B		○	
3	C	○	○	○

A児のように、学級活動（2）（3）の補助簿において総括評価に○を付けていない場合でも、学級活動（1）において、創意工夫を生かして話し合う活動を評価した場合、指導要録に○を付けることも考えられます。

C児のように、学級活動（1）及び（2）（3）の総括評価がどちらも○の場合、指導要録に○を付けます。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿

本時の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を具体的に設定します。一例として、卒業アルバムの学級ページについて話し合う本時の学級活動（1）〔第6学年〕の評価規準例を示します。

◇ 評価規準〔思・判・表〕（観察・学級会ノート）
 学級のみみんなの願いが詰まった卒業アルバムの学級ページにすることを踏まえた上で、それぞれの意見に込められた思いや学級全体にとっての価値に着目しながら、二つの意見を統合する等よりよい考えに練り上げていけるように話し合いを進めている。



学習評価で大切にしたいこと

学校全体における評価体制の確立

特別活動は、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いです。各学校で生徒一人一人の活動状況を把握し共有できる評価体制を確立し、共通理解を図って、子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにすることが大切です。

指導改善につながる評価の実施

評価を通じて、生徒への指導だけでなく教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることが大切です。

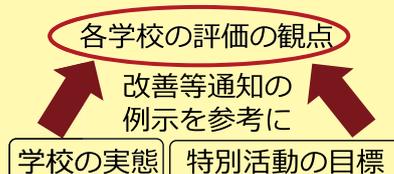
評価の観点及びその趣旨

特別活動は、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である各教育委員会ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、各学校において評価の観点を設定する際の参考になります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己の実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Point 各学校において評価の観点を設定

評価の観点は、学校の実態、学習指導要領の特別活動の目標を踏まえ、改善等通知の例示を参考に各学校で設定します。その際、社会参画等、学校として重点化を図った内容を踏まえた評価の観点になるようにするため、校内研修等で協議する場を設け、全職員で共通理解を図ります。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

特別活動における「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。

- I 粘り強さ（例：粘り強く、積極的に、進んで 等）
- II 自らの学習の調整（例：見通しをもったり振り返ったりして 等）
- III 自己のよさや可能性等を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度

Point

学習指導要領解説に示されている目指す資質・能力の例示を参考に、自校として目指す資質・能力を設定し、評価規準を作成します。

「学級活動（２） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を進んで（Ⅰ）形成しようとしている。
他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったり（Ⅱ）しながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。
将来にわたって自他の健康で安全な生活を構築しよう（Ⅲ）としている。

Point

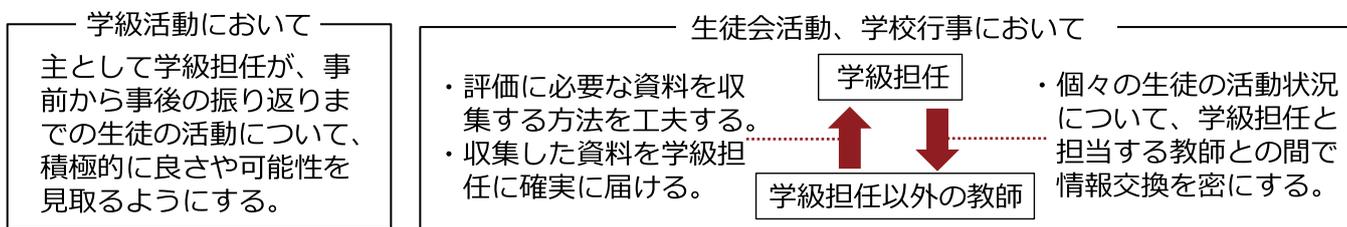
期間を定めて振り返りの場を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る

学級活動（２）の評価は、自己の課題の解決方法について意思決定したことを実践できているか、事後の実践の期間を例えば一週間程度で振り返り、「振り返りカード」等を活用して努力や成果の足跡を残すようにします。それらの記述を評価の参考にし、粘り強く実践する態度等について評価を行います。生徒会活動や学校行事においても同様に振り返りの場を設定し、活動のまとめをしたり発表し合ったりする活動を見取り、評価を行います。

学習評価における留意点

評価体制の確立

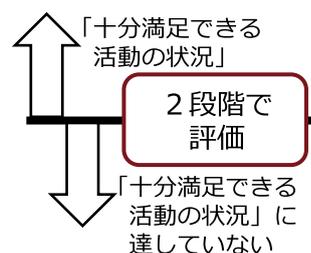
特別活動は、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多くあります。そのため、各学校において評価体制を確立し、共通理解を図りながら評価することが大切です。



「十分満足できる活動の状況」を2段階で評価

特別活動における「十分満足できる活動の状況」は、2段階で評価を行います。その際、学級活動ファイルにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら機会を捉えて評価することが大切です。

また、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを話し合い、全職員で共通理解を図っておくことが重要です。



観点別学習状況の評価の総括

各活動では学期や年間を通して一覧で確認できる評価補助簿を活用すると、事実に基づいて評価の総括ができます。

〈学校行事における評価補助簿の例〉

番号	名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A	○	○	○	9/13 体育会に向けて 自分にあつためあてを立てている。	○
2	B		○	○	9/20 文化祭に向けて 互いのよさを生かすために自分には何ができるか考えることができた。	
3	C		○○	○○	9/20 文化祭に向けて 進んでよりよい合唱をつくろうと、学級みんなに声掛けを行うことができた。	○

一連の学習過程を通して、メモ欄にその生徒の様子を記述しながら、その都度「十分満足できる活動の状況」の場合、機会を捉えて評価し、観点別に○を付けます。また、総括して○を付ける際は、学校で方法を統一しておくことが必要です。

生徒指導要録における特別活動の記録

【中学校生徒指導要録（参考様式）様式2の観点の記入例】

特別活動の記録					
内容	観点	学年			
		1	2	3	
学級活動	集団や社会に参画するための知識・技能 協働してよりよい生活や人間関係を築くための 思考・判断・表現				
生徒会活動					
学校行事	余白				

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に○を記入します。

左の例では「特別活動における資質・能力の視点を基に重点化を図った例」を記入していますが、各学校で定めた観点を記入します。

観点の下は、変更がある場合を想定して余白をとっておきます。